

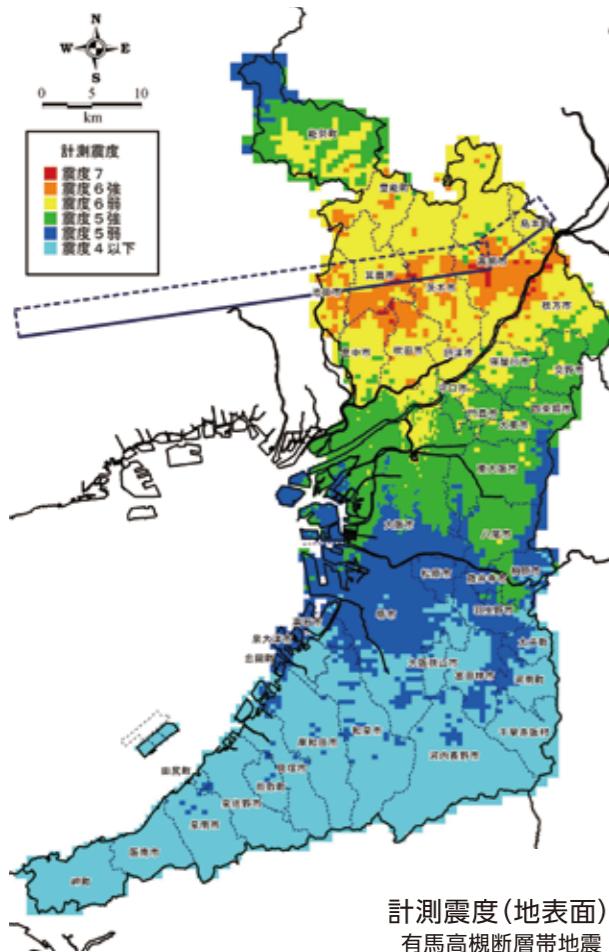
地震災害

earthquake disasters
地震灾害 / 지진 재난

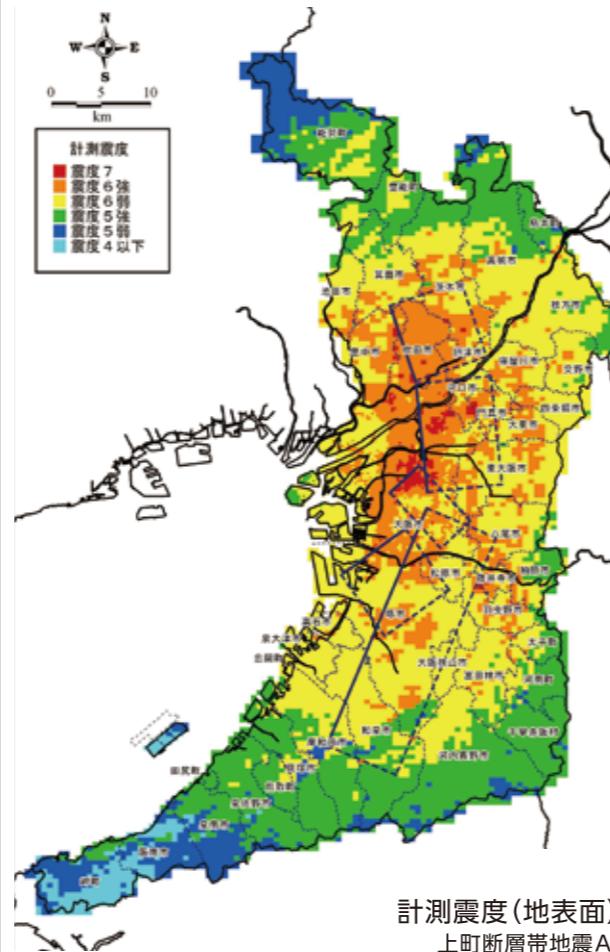
地震ハザードマップ

この地震ハザードマップは大阪府で発生が想定される地震による震度(揺れ)の程度を示したマップです。以下の2つの分布図は大阪府“平成19年3月自然災害総合防災対策検討(地震被害想定)”の震度データを基に大阪府が作成したものです。

有馬高槻断層帯地震

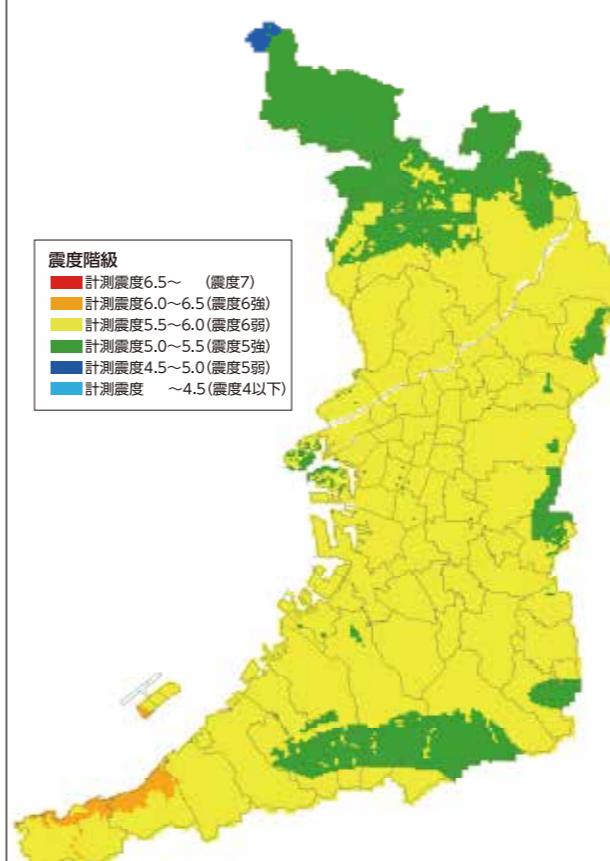


上町断層帯地震



以下の分布図は内閣府が平成24年8月に公表した南海トラフ巨大地震による震度分布を踏まえ、大阪府が作成したものです。(南海トラフにおいて発生する可能性のある最大級の地震を想定)

南海トラフ巨大地震震度分布図

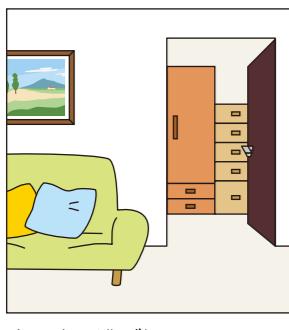


震度階級表

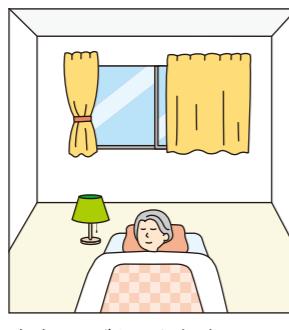
震度 4		●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物が大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。
震度 5弱		●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
震度 5強		●物につかまないと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本は落ちるものが多くなる。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
震度 6弱		●立っていることが困難になる。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたり倒れるものがある。
震度 6強		●はわないと動くことができない。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。
震度 7		●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物は、倒れるものが多くなる。

出典:気象庁震度階級関連解説表

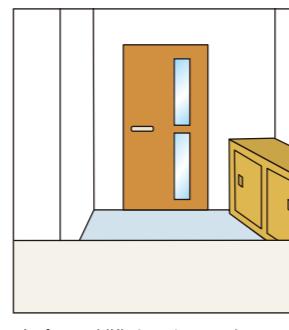
家の中の安全対策



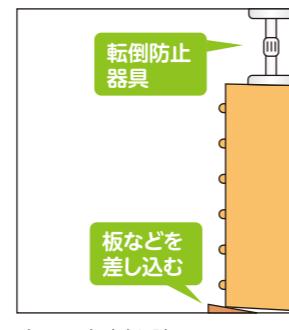
家の中に逃げ場としての
安全な空間をつくる



寝室、子どもやお年寄りのいる
部屋には家具を置かない



安全に避難するため、出入口
や通路にものを置かない



家具の転倒を防ぐ

家具の転倒、落下を防ぐポイント

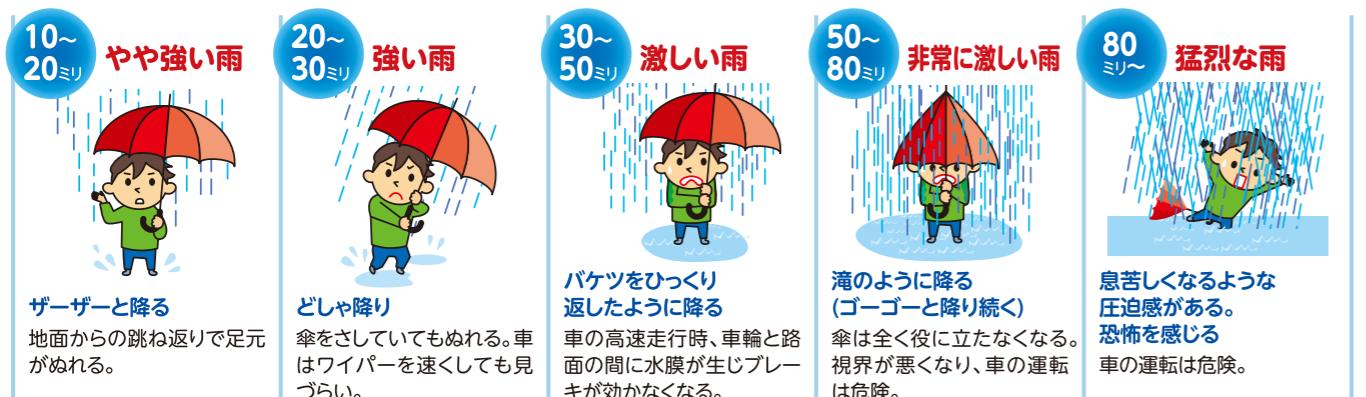
タンス・本棚	食器棚	テレビ	照明	冷蔵庫
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかりと連結しておく。	L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。	できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。またテレビ台の上には水槽や金魚鉢を置かない。	チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。	2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。

風水害

storm and flood damage
風災和水災 / 풍수해

雨の降り方と災害発生の目安

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難指示が出る前でも、危険と判断すれば避難などの準備をしたり自主的に避難することも大切です。【雨量は1時間雨量(ミリ)】



●風の強さと吹き方

平均風速(m/s) おおよその時速	10~15	15~20	20~30	30~40
風の強さ(予報用語)	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまつていないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。

気象情報の種類と発表基準

特別警報が発表されたら、「ただちに命を守るために行動をとる」

注意報	災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報です。
警報	重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報です。
特別警報	警戒発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、最大限の警戒を呼びかけて行う予報です。

大阪管区気象台が発表する主な警報の発表基準(豊能町)

警報	大雨(浸水害)	(表面雨量指基準) 17
	大雨(土砂災害)	(土壤雨量指基準) 141
	洪水	(流域雨量指基準) 余野川流域=9.9、初谷川流域=7.4
	暴風	平均風速20m/s
特別警報	大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測される場合
	暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合

記録的短時間大雨情報の発表基準

▶ 大阪府 / 100mm/h

防災気象情報の段階的な発表

気象台が発表する気象情報	発令時の状況
大雨注意報	大雨注意報は、大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。雨が止んでも、土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続します。
大雨警報	大雨警報は、大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨警報(土砂災害)」、「大雨警報(浸水害)」又は「大雨警報(土砂災害、浸水害)」のように発表します。雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続します。
大雨特別警報	大雨特別警報は、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表します。特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表します。

●警報の種類と概要

種類	予想される重大な被害	概要
洪水警報	家屋の流失や浸水、道路や耕地の浸水や冠水、陸上交通の障害等	洪水警報は、河川の上流域での大雨や融雪によって下流で生じる増水や氾濫により重大な洪水災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。対象となる重大な洪水災害として、河川の増水・氾濫及び堤防の損傷・決壊、並びにこれらによる重大な浸水害があげられます。
暴風警報	家屋の損壊、農作物の損傷や落果、停電、陸上・海上・空の交通障害等	暴風警報は、暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

危険を感じたら早めに避難しましょう

町では、町内の公共施設等を避難所施設としており、本防災マップP13と町ホームページに一覧表を掲載しております。普段から最寄りの避難所を確認し、また、実際に避難経路を歩いて確認しておいてください。

また、実際に災害時に避難をされる時は、警察や消防、自主防災組織等の誘導、指示に従って、動きやすい服装で最寄りの避難所へ避難してください。その際、自宅の電気・ガスの火元を確認し、避難途中でも浸水の危険もありますので、周囲には十分注意してください。暴風雨の夜間や道路冠水時など避難経路上の危険個所の把握ができない場合等、どうしても避難行動が困難な場合は、指定避難所への移動は避け、自宅などの2階以上に緊急避難してください。

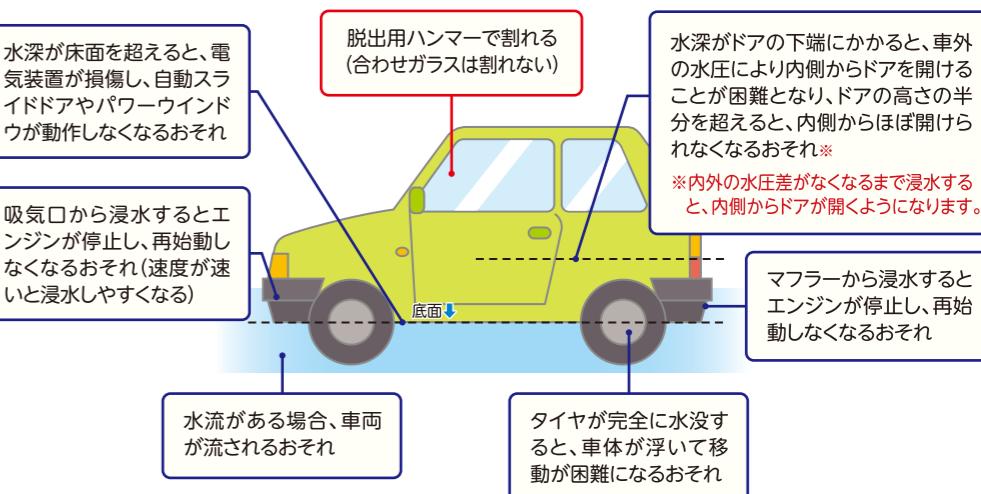
要配慮者の避難にご協力を!

介護を要するお年寄りや障害のある人は、特に早めの避難が必要となります。皆さんの地域にお住まいの災害時に避難行動に支援を要する方々の避難については、地域みんなで協力し合い、安否の確認や呼びかけなど手助けをしましょう。

また要配慮者の避難がスムーズに行えるよう、日頃からの声かけや状態の把握など、地域ぐるみのご協力をお願いします。

自動車による避難のリスク

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。また、水深がドアの高さの半分を超えると、ドアを内側からほぼ開けられなくなります。



風水害

storm and flood damage
风灾和水灾 / 풍수해



■ 水害時避難の心得

避難のポイント

風水害

正確な情報の入手

町防災情報・テレビ・ラジオで最新の気象情報などに注意しましょう。雨の降り方などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。



車での避難はよく考えて

緊急車両の妨げにならないよう、また浸水の危険性も考えて車を使いましょう。



避難する前の確認

避難する前に、電気・ガスなどの火を消し、避難所の位置を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



要配慮者への協力

高齢者や子供などは早めの避難が必要です。一人暮らしの人への声かけを行うなど近所の高齢者等が避難する場合には、協力しましょう。



安全な避難路を選ぶ

避難はできるだけ高い道路を選び、水路などには十分注意しましょう。また土砂災害警戒区域を避けるようにしましょう。



万が一逃げ遅れたときは

万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。



非常持出品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



動きやすい服装での避難を

避難するときは、動きやすい服装で2人以上の避難を心がけましょう。



水平避難と垂直避難

風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

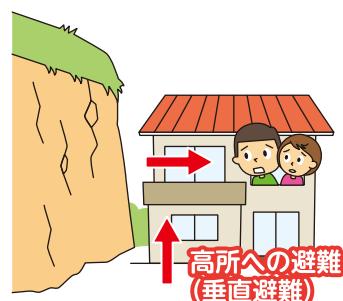
そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行う判断も必要です。

また、土砂災害の危険性がある時は、屋内でも山と反対側に避難を行いましょう。

警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。

「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

避難先は小中学校・公民館等だけではありません。
安全な親戚・知人宅やホテル、地域外に避難することも考えてみましょう。



土砂災害

disaster by earth and sand

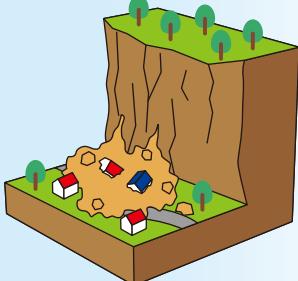
沙土灾害 / 토사 재해

土砂災害

土砂災害警戒の種類と前兆現象

近年、局所的に降る大雨により、全国的に土砂災害が多発しています。局所的に降る大雨は事前の予測が難しく、一瞬にして被害が発生してしまいます。土砂災害警戒区域等にお住いの方は、前兆現象などに十分注意し、早めに避難してください。豊能町の土砂災害警戒区域等については、本防災マップの地図面に掲載しています。

がけ崩れ (急傾斜地の崩壊)

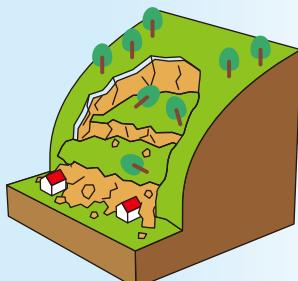


地中にしみ込んだ雨水で柔らかくなった土砂が斜面から突然崩れ落ちる現象。
一瞬のうちに崩れ落ちるので、逃げ遅れなどで被害が大きくなります。

前兆現象

- 崖から小石がパラパラ落ちてくる。
- 斜面に亀裂やふくらみが見える。
- 崖から水がわき出している。

地すべり



比較的緩やかな斜面で地中の粘土層がゆっくりと動き出す現象。
一度に広範囲で発生するので、住宅や道路などに大きな被害が出ます。

前兆現象

- 地下水などの急激な変化で、井戸の水が濁る。
- 地割れができる。
- 斜面から水が噴き出す。

土石流



谷や斜面に溜まった土・石・砂などが、大雨による水とともに一気に流れ出す現象。
スピードが速く、破壊力も大きいため、広範囲に大きな被害が出ます。

前兆現象

- 流水が濁り、流木が混じり始める。
- 雨が降り続いているのに水位が下がる。
- 地鳴りがする。
- 土臭いにおい。

土砂災害(特別)警戒区域とは

土砂災害警戒区域
(イエローゾーン)

崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域

土砂災害特別警戒区域
(レッドゾーン)

崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域